

# 文学に働く力、 文学が発する力

## 権威・検閲・文学場

**野呂 康** 文学の領分—文学は何を伝えるのか

岡山大学全学教育学生支援機構基幹教育センター准教授

前作『GRIHL』では、フランスの社会科学高等研究院を中心とした研究グループの仕事を紹介しながら、歴史記述における文学の効用について問題提起を行なった。続編『GRIHL II』には、同グループとの共同研究の成果が収録されている。文学作品の成立時に組み込まれた権力と、その後作品がまといつつ後世の読者に働きかける力、すなわち権威をテーマとしたシンポジウムの記録である。この度の人文研アカデミー2021では、このテーマを敷衍し、文学テキストをめぐる力の諸相についてパスカルを例に論じたい。

**森本 淳生** レチフ、あるいは、どぶ川のルソー—文学場の周縁とマイナー作家性

京都大学人文科学研究所准教授

18世紀後半のフランスで活躍したレチフ・ド・ラ・ブルトヌは、農民出身の印刷工ながら文学的名声を求めて孤軍奮闘したマイナー作家である。「どぶ川のルソー」と呼ばれたこのレチフが文学場の周縁で展開した活動を、『パリの夫婦』、『父の呪い』、『浮気な妻』などの作品を通して分析してみたい。

**中畑 寛之** 19世紀末フランスで裁かれた文学、その後  
—リシュパン、マンデスを例として

神戸大学大学院人文学研究科教授

「公衆と宗教道徳、あるいは良俗に反する罪」で処罰された作品を改めて世に問う際、著者や出版人はしばしば裁判に触れ、検閲を批判する。この種のペリテキストは事後的にしか書物に組み込めないが、文学に介入する権力への対抗装置と捉え考察を試みたい。

**山上 浩嗣** Commentator  
大阪大学大学院文学研究科教授

2021年 対面 × オンライン視聴

# 12月11日(土)

14:00~17:00 京都大学人文科学研究所 本館セミナー室1



本シンポジウムは対面とZoomウェビナーを利用したオンライン視聴を併用して実施します。

① 対面での参加を希望される方は、以下のアドレスまで氏名を明記のうえご連絡ください。

[z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp](mailto:z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp) 定員(15名)に達し次第、募集を締め切りますので、予めご了承ください。

② オンラインでの視聴を希望される方は、左のQRコードから事前登録をお願いいたします。

ご登録いただいたメールアドレスに追って視聴用URLが送付されますので、シンポジウム当日はそちらのURLにアクセスをお願いいたします。



主催

京都大学人文科学研究所

お問い合わせ

京都大学人文科学研究所 総務掛

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL 075-753-6902 (月~金 9:00~17:00)

mail: [z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp](mailto:z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp)